

六、お客さまに必要とされる銀行へ向けて 新たなステージへの出発

六―一 平成十九年度経営計画と久須美頭取新体制の発足

(平成十九年度経営計画)

平成十九年度は、長期経営計画「パワーアップ100」の最終年度で、かつ創業一三〇年の節目を迎える年でもあることから、これらを踏まえて年度の経営方針を次のとおりとしました。

- 一、今後の持続的成長にむけた顧客基盤の拡大を徹底して推進
- 二、現長期経営計画の総仕上げとして当期利益目標四五億円を達成
- 三、コンプライアンス遵守と質の高い金融サービスの提供を通じて、顧客の信頼と満足度を高める

*

四月の支店長会議において野崎國昭頭取は「特に顧客基盤の拡大については、真正面から取り組んでいかねければならないテーマである」と述べ、この創業一三〇年の年に将来にむけた礎を築けるよう徹底的に取り組んでいく考えを示しました。

また、不良債権問題が一段落したこれからは企業としての真の実力が問われるなかで、新しい北越銀行をどう作り上げていくのかということに真剣に考え努力していく時期にきているとして、十九年度経営計画に基づく施策を着実に実現していくよう示達しました。

(久須美頭取新体制の発足と営業方針説明会の開催)

平成十九年五月十八日の平成十八年度決算記者会見において、六月二十六日に開催予定の第一〇二期定時株主総会決議をもって、野崎國昭頭取の退任と久須美隆専務取締役の新頭取への就任が発表されました。

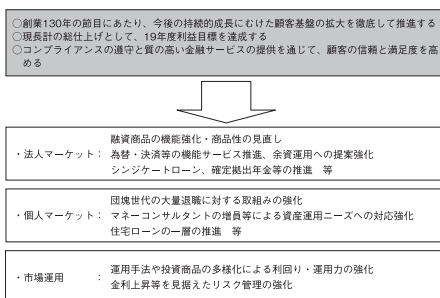
第一〇二期定時株主総会を終え、久須美隆頭取による新体制がスタートすると、翌六月二十七日の本部説明会を皮切りに七月二日から八月十日まで九回にわたり、各地区別に営業店長、副支店長、渉外担当役職者を出席者として営業方針説明会が順次開催されました。

*

久須美頭取は、この説明会において「当面の経営の進め方について」として、地銀の存在意味を再考しながら真の顧客指向を貫いていく方針を次のとおり述べています。

- 一、今後の地域経済や競争環境を踏まえると、地銀には言葉だけの地域密着でない真の生き残り策が問われている
 - 二、こうしたなかで「地銀の存在意味」をもう一度見つめ直し、ハード・ソフトを含めて全体の考え方・態勢が本当に顧客ニーズに込んでいるのか徹底的に見直していくことが必要
 - 三、そのためにも、一人ひとりの行員の質・行動力のアップにより「顧客対応力」をもっと高めるとともに、組織を挙げての取り組みをすすめていく
- こうした方針を踏まえ、具体的な対応として営業店窓口や渉外機能の強化、融資推進姿勢、人事施策見直し等にスピードをもって取り組んでいくとの考えを示しました。

平成19年度経営方針



六一一 創業一三〇年を踏まえた主要施策

平成十九年度の営業推進策については、創業一三〇年の一つの大きな目標として十二月末での総預金等残高（開示ベース）を二兆円に設定しました。

こうした中で、平成十九年六月～九月までの期間限定で発売した、「創業一三〇年記念定期預金」は、個人預金の大幅な増加へとつながりました。

また、当行の新しいキャラクターとして、国民的ヒーローで頼りがいのあるイメージを持つ「鉄腕アトム」を六月から採用し、「通帳やキャッシュカードのデザインを一新しました。

十月には、全国の地銀で初となる、全ての曜日・営業時間でATM入出金手数料の完全無料化（当行および提携するセブン銀行ATM）を開始し、十一月にはeネットバンキング（インターネットバンキング等）の基本手数料無料化など、顧客利便性を徹底的に追求した施策をすすめました。

なお、ATM手数料完全無料化にあわせて、給与振込口座獲得推進運動を展開するなど、将来の安定的な顧客基盤づくりへの取り組みについても強化をはかっています。

六一三 自然災害～新潟県中越沖地震

平成十九年七月十六日（月）午前十時三十分、新潟県中越地震から三年を経ずして、「新潟県中越沖地震」が発生しました。この地震は、柏崎市・刈羽村を中心にマグニチュード六・八、最大震度六強を記録し、死者十四名、住宅全壊一、二五九戸に上る大きな被害となりました。

当日は祝日でしたが、前回の中越地震の経験も踏ま

えて迅速な対応を行い、地震直後に本店において災害対策本部を設置するとともに、被災地区にある柏崎市内三カ店や店舗外ATMの状況を確認、復旧作業をすすめました。

幸い三カ店とも建物本体への被害がなく、支店行員の努力や本部からの支援体制を遅滞なく行ったこともあって、翌十七日（火）から通常どおり営業を継続しました。

被災されたお客さまへの対応としては、預金の便宜的払戻しや融資相談窓口の開設等を行ったほか、各種ローンの金利優遇、柏崎地区でのローンプラザ設置などを実施しました。

また、災害救助法が適用された六市町村へ、当行から復興にむけ見舞い金を寄贈しました。

六一四 創業一三〇年の記念事業

平成十九年十二月二十日の創業一三〇年を迎えるにあたり、これまで支援していただいた地域や株主の皆さまへの感謝を込め、平成十九年度内において創業一三〇年記念事業を実施しました。

まず、地域への還元として、新潟県内の全ての小中学校に対して、総額一億円の学校図書購入資金を贈呈しました。これは、地域の発展の第一歩は「人づくり」にあるとの考えに立ち、次代を担う青少年の健全な育成に役立てていただくことを目的としています。

その贈呈対象先は、小中学校あわせて八五一校、八、五九〇学級に上りました。

*

一方、株主の皆さまへは、平成二十年三月期の間配当について普通配当に加え記念配当として一株につき一円増配し、年間配当予想を七円としました。



学校図書購入資金の贈呈

8月1日(木)
ホクギン柏崎東ローンプラザを
開設いたしました。

個人で震災の被害を受けました方が、
この度の「震災被害軽減特例」により被害を受けられた皆さまに
心よりお見舞い申し上げます。

※この特例は被災者本人、被災者本人の「ホクギン柏崎東ローンプラザ」を開設
した日（8月1日）から「震災被害軽減特例」期間中に開設された方のみです。
被災者の皆さまには速よりお見舞い金をお振込みし、お見舞い金の発生を促して
いただきますので、ご連絡ください。ご質問につきましてはお問い合わせください。

ホクギン柏崎東ローンプラザ
〒951-8501 新潟県柏崎市東山町1-1-1
TEL.0257-21-7701
営業時間 9:00～17:00（土曜・日曜・祭日・年末年始は休業）
※本プラザは、柏崎東支店の一部店舗を併設して営業いたします。

このほか、記念事業における社会貢献活動の一環として、「トキ愛護募金」から新潟県のトキ保護センターへ自動車二台、「長陵交通安全協力会」から新潟県警へパトロールカー一台の特別寄贈等もあわせて行われました。

六―五 新たなステージへの出発

地方銀行の経営を取り巻く環境は、地方と大都市圏との経済格差拡大やグローバル化による地場産業の衰退、少子高齢化など、厳しい変化のうねりのさなかにあります。さらに、道州制や地方財政のあり方などの議論の行方も、今後、経営へ少なからぬ影響を及ぼすものと思われまます。

一方で、地域金融においては、主要行の地方進出や巨大なゆうちょ銀行の誕生、他業態からの新たな参入などにより、競争が一段と激しさを増しています。

このようななかで、平成十九年六月に改定された経済成長戦略大綱では、地域・中小企業の活性化への支援が新たに盛り込まれたほか、金融イノベーションの実現、利用者の視点に立った金融機能強化などが掲げられ、金融行政へ反映されています。

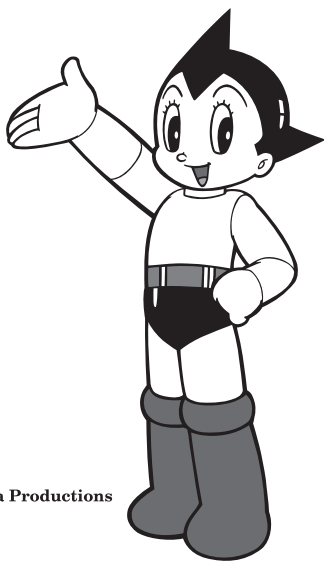
*

いま、地方銀行の経営課題は、これまでの不良債権問題が一段落するなかで、前述のような厳しい環境や求められる役割などを踏まえながら、どのように新たな成長段階を築いていくのかということへ大きく変化しています。

こうしたなか当行では、地域・顧客から真に必要とされる銀行を目指して、営業力強化と人材育成の二つを大きな軸とした新たな長期経営計画に、平成二十年度から取り組みます。

変化の激しい時代のなかでは、新しいことを畏れず、柔軟かつスピーディーな変革が求められますが、地方銀行としての本来の役割は何ら変わることはありません。

この創業一三〇年という節目を機に、役職員全員がもう一度その存在意味を問い直しながら、一丸となつて新たなステージへ前進していきたいと考えています。



©Tezuka Productions